

公益財団法人サカタ財団

第6期事業報告

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

●事業報告

2024年4月1日から2025年3月31日までの会計年度においては、文部科学省の学校基本統計によれば、2024年の大学への進学率は59.1%（前年57.7%）となり過去最高水準となりました。大学全体の在学者数は295万人、うち、学部在学者数は262万8千人（前年より4千5百人減少）となりました。また、2024年の大学院への進学率は12.6%（前年12.5%）となり、過去10年間と比べ、大きな変動は見られませんでした。大学院在学者数は27万2千人（前年より5千7百人増加）となりました。大学への進学率の高まりとともに、日本学生支援機構による給付型奨学金の受給者のうち、大学に所属する学生数は25万2千人となり、前年24万4千人を上回っており、年々、増加しております。

このような状況の中、当財団では、第6期事業計画に基づき、理事会・評議員会の開催、奨学生の募集・選考活動、親睦・意見交換等を目的とした交流会の開催を実施することができました。

理事会、評議員会の運営においては、活発な議論ができるよう、資料の事前配布、対面会議による開催等、会議運営の充実に取組んでまいりました。

奨学金助成事業においては、設立6年目を迎え、当財団の奨学金制度の認知度が向上した結果、大学・大学院のご担当者様の多大なご協力のもと、昨年に引き続き、多くの学生を募ることができました。また、ホームページの充実、電話・メールによる問い合わせ対応等を通じて、当財団の奨学金助成制度の認知を広げる活動に取り組んでまいりました。

その結果、第6期奨学生の応募者数は、280名（大学：110名、大学院生170人）となり、第5期生の応募者数287名（大学生114名、大学院生173名）と同水準となりました。応募者の所属大学は、64大学（昨年54大学）、45大学院（昨年46大学院）となりました。書類選考及び面接選考を経て、選考委員会における審議の結果、第6期奨学生12名（大学生5名、大学院生7名）が決定され、2024年7月より奨学金の給付が開始されました。これにより、2025年3月末時点、奨学生は合計29名となりました。

また、2025年3月30日、第3回交流会をヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて開催いたしました。当日は、現役奨学生に加え、奨学生OB・OG、理事・監事・評議員・選考委員、総勢53（うち、奨学生34名）の参加となりました。

●計算書類の概要

(1) 当財団の2025年3月31日時点の貸借対照表は、以下の通りとなりました。

- ・資産の部は、「現預金」の残高が、期首4,782千円より、1,446千円増加し、6,230千円となりました。

「現預金」残高の内訳は、管理運営積立金3,137千円、特定費用準備資金2,978千円となります。なお、特定費用準備資金は、奨学金給付資金の原資として積み立てたものとなります。

- ・負債の部は、今期末に発生した交流会に関する支払いが翌期となることに伴い、未払金1,132千円を計上しております。

- ・正味財産の部は、指定正味財産20,000千円に一般正味財産5,097千円と合わせて、25,097千円となりました。

(2) 当財団の2025年4月1日から2026年3月31日までの正味財産増減計算書は、以下の通りとなりました。

- ・経常収益は、有限会社ティーエム興産および株式会社サカタのタネから、それぞれ15,000千円、10,000千円の寄付金等により、25,000千円となりました。

- ・経常費用は、事業費として、給付奨学金21,000千円、交流会開催に伴う接待交際費1,256千円等により、前期に比べ、1,539千円減の22,813千円となりました。また、管理費として、事務局員の給与420千円、賃借料165千円、通信費231千円等により、前期と比べ、652千円減の1,643千円となりました。経常費用合計は、前期と比べ、2,191千円減の2,191千円となりました。

- ・したがって、当期経常増減額は、555千円となりました。

(3) 公益目的事業に関わる残高は翌期の奨学金給付資金の原資として特設費用準備資金に計上いたしました。

その結果、翌期公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条6号及び第14条に定める「収支相償の原則」は満たされております。